



吸入ばく露については、一般環境大気中の濃度についてみると、予測最大ばく露濃度は概ね 1.1 µg/m<sup>3</sup> であり、無毒性量等 2.7 mg/m<sup>3</sup> と予測最大ばく露濃度から、同様にして求めた MOE は 250 となった。また、室内空気中の濃度についてみると、局所地域のデータとして報告のあった室内空気中の濃度を用いて参考として算出すると、予測最大値は 73 µg/m<sup>3</sup> 程度で、MOE は 3.7 となった。従って、本物質の一般環境大気の吸入ばく露による健康リスクについては、現時点では作業は必要ないと考えられたが、室内空気の吸入ばく露については、局所地域のデータではあったものの、MOE は 3.7 であったため、詳細な評価を行う候補と考えられる。

ばく露経路	有害性の知見			ばく露評価		リスク評価の結果			判定
	リスク評価の指標	動物	影響評価指標 (エンドポイント)	ばく露の媒体	予測最大ばく露量及び濃度	MOE			
経口	無毒性量等 13 mg/kg/day	ラット	運動失調及び活動低下	飲料水	— µg/kg/day	MOE	—	×	○
				地下水	< 0.002 µg/kg/day	MOE	> 650,000	○	
吸入	無毒性量等 2.7 mg/m <sup>3</sup>	ラット	運動協調性障害	一般環境大気	1.1 µg/m <sup>3</sup>	MOE	250	○	○
				室内空気	73 µg/m <sup>3</sup>	MOE	3.7	■	

#### 4. 生態リスクの初期評価

急性毒性値は、藻類では緑藻類 *Pseudokirchneriella subcapitata* の生長阻害における 72 時間 EC<sub>50</sub> 1,000,000 µg/L 超、甲殻類ではオオミジンコ *Daphnia magna* の遊泳阻害における 48 時間 EC<sub>50</sub> 1,000,000 µg/L 超、魚類ではメダカ *Oryzias latipes* の 96 時間 LC<sub>50</sub> 100,000 µg/L 超、その他の生物では原生動物 *Spirostnum ambiguum* の 48 時間 LC<sub>50</sub> 1,100,000 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、急性毒性値に基づく予測無影響濃度(PNEC)として 1,000 µg/L 超が得られた。慢性毒性値は、藻類では緑藻類 *P. subcapitata* の生長阻害における 72 時間 NOEC 180,000 µg/L、甲殻類ではオオミジンコ *D. magna* の繁殖阻害における 21 日間 NOEC 4,100 µg/L が信頼できる知見として得られたためアセスメント係数 100 を適用し、慢性毒性値による PNEC として 41 µg/L が得られた。本物質の PNEC は、甲殻類の慢性毒性値から得られた 41 µg/L を採用した。

PEC/PNEC 比は淡水域では 0.02、海水域では 0.005 となるため、現時点では作業は必要ないと考えられる。

有害性評価 (PNECの根拠)			アセスメント係数	予測無影響濃度 PNEC (µg/L)	ばく露評価		PEC/PNEC比	評価結果
生物種	急性・慢性の別	エンドポイント			水域	予測環境中濃度 PEC (µg/L)		
甲殻類	慢性	NOEC 繁殖阻害	100	41	淡水	1	0.02	○
					海水	0.22	0.005	

#### 5. 結論

	結論		判定
健康リスク	経口ばく露	現時点では作業は必要ないと考えられる。	○
	吸入ばく露	一般環境大気の吸入ばく露は現時点では作業は必要ないと考えられるが、室内空気の吸入ばく露は詳細な評価を行う候補と考えられる。	○   ■
生態リスク	現時点では作業は必要ないと考えられる。		○

[リスクの判定] ○：現時点では作業は必要ない、▲：情報収集に努める必要、■：詳細な評価を行う候補、×：現時点ではリスクの判定はできない